
俺はもうすぐ死ぬ

メタかつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺はもうすぐ死ぬ

【Nコード】

N3538D

【作者名】

メタかつ

【あらすじ】

癌の告知を受けた男、男の命の灯火はあとわずか……………人生最後の時間男は日記を書くことにした。人の終末期の精神変化を軸としました。感想頂けると助かります

12月6日、12月22日

――12月6日――日記何て書いたことが無いから何を書いたらいいのかな…とりあえず思ったことを書いていきたいと思う。

今、俺は病院のベッドに寝ている。夜おふくろが涙を流していた…
どうも俺は癌のようだ、それもリンパまで転移してて持って1カ月…
…だそうだ。主治医がたんと言っていた、でも俺には実感が
ない。

うーん、書くことないな…何で日記書くことと思ったんだろ？

――12月7日――体調はすこぶる良好。手の痺れは多少あるものの痛みは無い。多分何かの間違いだろう、俺は癌なんかじゃないはずだ。

明日主治医に聞いてみよう。今日お袋、見舞いに来なかったな…

――12月8日――今日、主治医に聞いた…俺は間違いなく癌なのだそうだ、完治は不可能だそうだ…

まだ27だぜ？

でも、妙に落ち着いている人間とは以外に強くできているようだ。
お袋がお見舞いに来たいいつもと変わらず接してくれる。

――12月9日――体調はすこぶる良好。今日は手の痺れもなく食欲もある。ホントに俺は癌なのか？

今日は幸子がお見舞いにきた？リンゴを剥いてくれた、幸子は俺の

ことを胃潰瘍だと思っている…お袋がいったのだろうか？結婚…
…できるわけねーよなあ。

――12月10日――体調すこぶる良好。今日は朝から幸子が来ていた。散歩にいきハネムーンの話を楽しそうにしている……気が早い、結婚もしてないんだぜ？……………今日は疲れたので早めに寝ます。

――12月11日――今日は体がダルい。風邪でもひいたのだろうか？5時すぎ、幸子がきた少し喧嘩した。内容はくだらないのでここでは書きたくない。

――12月12日――特になし。

――12月13日――朝から体が痛い、正直ム力つく！ム力つく！ム力つく！

――12月14日――今日は朝から検査だ。看護婦いてーんだよ！下手くそが！俺は小さいときからいい子でいたんだ！いい学校もでた！親孝行もした！なんでこんな思いしないといけないんだ……
本当だれか変われ！

――12月15日――全てがム力つく！！！！体は痛いし、飯はまずい！皆殺しにしてやりたいお袋が泣いてたぜ！！！！一番辛いの

は俺だろ！

なんでお前が泣くんだよ。俺なんて生まれてこなけりや良かった！

[illegible]

――12日19日――2日間、日記を書かなかった……まゝいゝか正直日記を書く気になれなかつたし、精神的に疲れていた。今は大丈夫……！いいもの見つけたんだぜ！癌に利くアガリスクというキノコだ！食べて3時間程で痛みが取れ癌が消えてくらしい……。

今、バリバリ食べてる！更に聖書まで買った！！今日、幸子とクリスマスの予定を立てた。楽しみだ。

――12月20日――アガリスクの効果は特になし、ホントに効くのかな…効くよね？明日効くはずだ…

――12月21日――俺の癌は治らないらしい…アガリスクを食
べても無駄らしい。主治医が言っていた。俺は死ぬのか……死ぬ
んだよな…。幸子ごめんな。俺は死ぬみたいだ。本当ごめん。お前
はスタイルいいし、かわいいし俺よりもっといい男見つけて幸せに
なれよ…。

死ぬとわかってる男と付き合ってたんだ

――12月22日――今日は朝から幸子が病院にいる。幸子の笑顔を見ると、とても幸せな気分になる。幸子はクリスマスをとっても楽しみにしていた……

俺は幸子と別れようと思う……だってそうだろう？俺には未来はないんだ、そんな男と付き合ってちゃだめだ。俺の事は忘れてくれ……俺が死んだことも忘れてくれな。

ただ、ただ、ただ幸せになってほしい。

12月23日〜12月31日

――12月23日――今日は朝から腰が痛い……どす黒い鼻血が止まらない、幸子が心配そうに見ていたよ。俺のことをまだ胃潰瘍と
思っている……まあ俺にとってはそう思ってくれた方が助かるが

……

今日別れを言うつもりだったけど、言えなかった……言わなきゃいけないよな……言わなきゃ……なあ……

――12月24日――クリスマスイブ……俺は幸子に別れを告げた、俺は最低な男だ。

俺がいった言葉

「おまえとは全て遊びだった、もうおまえとは会えない」……

幸子は泣いていたよ

「酷い……本気だったのに……どうして……」って。

俺だって本当の事言いたかったさ！でも本当のこと言つと幸子はずっと俺のそばにいるだろ？俺が死んでも俺の事を思い続けるだろ？

幸子はそんな女だ……

だから俺の事を嫌ってほしかった、最低な男と思ってほしかった……

……

俺の事は忘れてくれ、おまえには未来があるんだ。幸せになつてくれ。未来のない俺なんか早く忘れてくれ……

ごめんな、幸子……

――12月25日――クリスマス……かあ。去年のクリスマス

は幸子と楽しかったな……………映画見て、フレンチ食べて、朝まで一緒にいたなあ。あの頃に降りてくなあ……………

でも何年振りかな家族と過ごすクリスマスって…でも俺にとって最後のクリスマス……………幸子…どうしてっかな？あいつも家族でクリスマス過ごしてるんかなあ…会いたいな……………幸子に。

――12月26日――朝、幸子から電話があった俺の事が忘れられないらしく別れないでほしい…と言っていた。俺はいったよ

「もう電話すんな目障りなんだよブス！」……………で。すぐに電話が切れた。

こりゃ完全に嫌われたな……………それでいい。正月まで生きれるかな？

――12月27日――鼻血が止まらない……………体を動かすたびに激痛が走る…今こうして日記を書いているのも辛い、もう日記を書く事は無理かもしれない……………

俺の人生は幸せだった…幸せな家族の元に生まれ一流大学まで行かせてもらった…これから、これから親孝行できると思ったのに。お母さん、お父さん親より先に死んでいく息子でごめんなさい。本当にごめんなさい……………

――12月28日――どんどん痛みが増してくる…辛くてたまらない。もうすぐ俺は死ぬんだな？短かったけど、とっても幸せな人生だった……………でも1つ気掛かりな事がある、幸子のことだ……………あいつに一言

「ありがとう」と言いたい。

「幸せになれ」と言いたい……………出来るならあの小柄な体をギュッと

抱きしめたい。

かわいい唇にキスをしたい……………
出来るならずっとそばにいてほしい。

――12月29日――目が霞んでくる……………胸が焼けるようにいた
い…

痛い…痛い…痛い。

――12月30日――俺は朝、血を吐いた……………看護婦が慌ててい
たよ…俺は……………

俺は……………

俺は……………

――12月31日――大晦日……………俺はもうだめだ…何となく分
かるんだ俺は今日死ぬ……………幸子……………俺の事はもう忘れられたか？
もしまだ俺の事を思ってるならだめだぞ……………早く忘れていい男
見つけるんだ。そして幸せになるんだ。それが俺の最後の望みだ…
でも…でも…最後におまえの顔を一目見たかった……………
愛しているよ幸子…

そして、お母さん、お父さん俺を生んでくれてありがとう。あなた
達の息子で幸せでした……………

こんな息子ですが最後の望みを聞いてください、この日記を読んだ
ら燃やしてほしいのです……………そして幸子には私が死んだことは言
わないでください…お願いします。

私はあいつの幸せだけ願っています。心配かけたくないのです……

では、お体に気をつけて

さようなら

エピソード

畳の匂い、焼香の匂いがあたりを漂っている。小さな茶の間である、真ん中にテーブルが1つ、向かう合うようにして喪服を着た女性が正座している。

「グスン…グスン…」

大学ノートである。喪服を着た女性がノートを握りしめ涙を流している…涙のせいなのか、ノートは見るからにボロボロに見える……

「幸子さん顔を上げて」

「……お母さん…」

「正直この日記をあなたに見せることは悩んだわ…息子の願い通り燃やして息子の死をあなたに言わないでおこう、とも考えたわ……でもね幸子さん……あなたには息子の本当の気持ちを知ってほしかったの。息子がどういう気持ちで死んでいったか………」

「………」

「息子はあなたを心の底から愛していたわ、泣いてちゃだめよ…」

「………」

涙をぬぐっても、ぬぐっても止めどなく流れてくる…

「息子はあなたの笑顔がとっても好きだったの、だから笑って、まだ息子を思っているなら笑って幸子さん…」

幸子は顔を上げる、涙で回りがぼやけて見えるがそこには笑顔で幸子に語りかけるお母さんの優しい笑顔が見えた。

「息子と私の最後のお願いです…幸子さん、息子の事は忘れてください…あなたは自分の幸せだけ考えてください…」

幸せになってください……………」

幸子は頭を下げた。2人の間には永遠とも思える時が流れている…焼香の匂いが妙に鼻についたのだった……

『お・わ・り』

エピローグ（後書き）

『俺はもうすぐ死ぬ』読んでくださりありがとうございます。
幸子を愛するが故に辛く当たった男… 作者は愛するとはこういう物
だと思っています。

愛とは見返りを求めないもの……

愛とは自分を犠牲にしても相手のことを第一に考える。

ご感想、評価してくれたら幸いにおもいます。
なお『ヘビメタ喫茶』も宜しく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3538d/>

俺はもうすぐ死ぬ

2010年10月12日21時16分発行